

『大山古墳(仁徳陵)と堺界限の散策』

担当：井守徳弘

予定コース

近鉄学園前駅＝鶴橋駅＝天王寺駅＝JR阪和線上野芝駅－ミサンザイ古墳(履中天皇陵)－大仙公園－七観音古墳－旗塚古墳－グッショウ坊古墳－堺市博物館(昼食)－堺市茶室伸庵・黄梅庵－孫太夫山古墳－大山古墳(仁徳天皇陵)－竜佐山古墳－狐山古墳－銅亀山古墳－磐之媛万葉碑－樋の谷古墳－初霜坂－丸保山古墳－菰山古墳－永山古墳－宿院頓宮－千利休屋敷跡－与謝野晶子生家跡－開口神社－ザビエル公園－刃物伝統産業会館－チンチン電車阪堺線妙国寺前駅－天王寺駅－鶴橋駅－学園前駅

(解散5時30分ごろ、徒歩約8km平坦道)

●ミサンザイ古墳(履中天皇陵)

前方部を南に向けた前方後円墳です。現在は百舌鳥耳原南陵・履中天皇陵として宮内庁が管理しています。墳丘の全長は365m、後円部径約205m、高さ約27.6m、前方部幅約235m、高さ約25.3mの規模で、日本で3番目の大きさの前方後円墳です。墳丘は3段築成で、西側のくびれ部には造出しがあります。主体部の構造や副葬品などはわかっていませんが、前方部上段に円丘が築かれているようで、ここにも主体部が設けられている可能性があります。

墳丘には葺石と埴輪があり、昭和61年(1986)には多量の形象埴輪が採集されました。

一重の盾形周濠と堤がめぐっていますが、平成6年(1994)以降の調査で、現在の周濠の外側に素掘りの二重目の濠が巡っていたことが明らかになっています。

周囲には、七観山古墳・七観音古墳・寺山南山古墳・狐塚古墳など陪塚と考えられる古墳が10基前後あったようですが、今では後円部の北東部に七観音古墳・寺山南山古墳の2基がのこっているだけです。

墳丘の形や出土埴輪の型式、陪塚と考えられる七観音古墳の年代観などから、大山古墳(仁徳天皇陵)に先立つ5世紀前半の築造と考えられます。

履中天皇は仁徳天皇の第一皇子で、仁徳天皇崩御後に即位した天皇であるが、考古学の成果から、このミサンザイ古墳は履中天皇ではなさそうである。

私は埴輪の編年から仁徳天皇陵と考えています。

『日本書紀』には履中天皇は磐余(奈良桜井市)の稚桜宮で即位したが、治世6年で亡くなり百舌鳥耳原陵に葬ったと伝えており、埴輪の

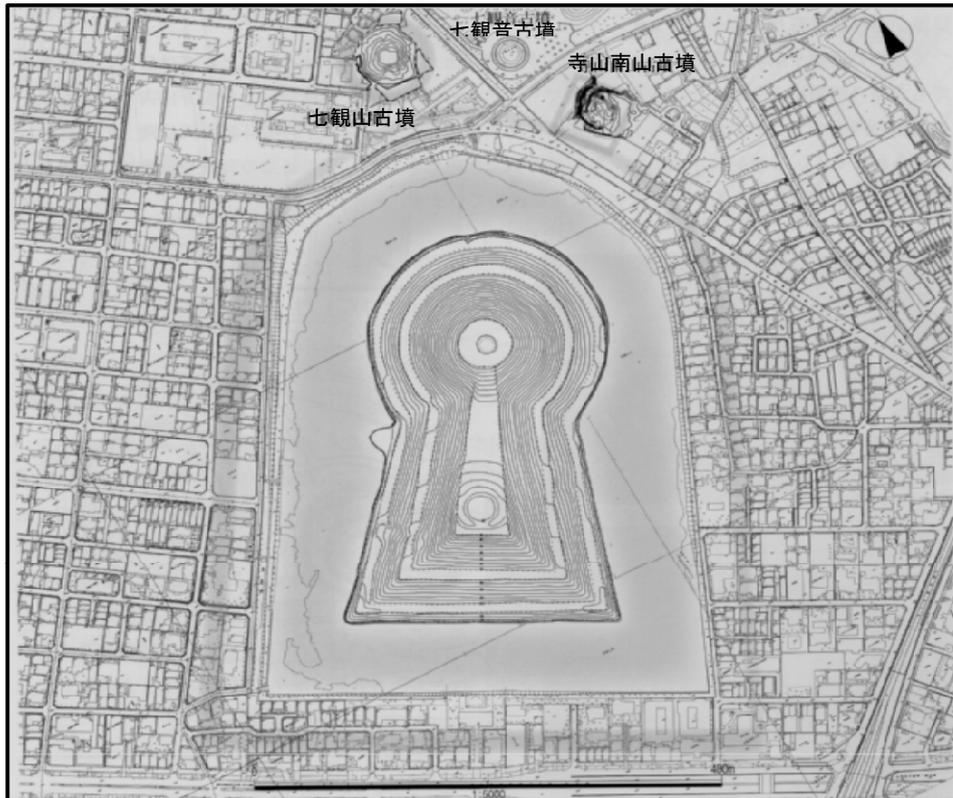
編年から大仙古墳（仁徳天皇陵）が履中天皇陵と考えます。

『古事記』から反正天皇は「御陵は毛受野にあり」とし百舌鳥耳原北陵田出井山古墳（反正天皇陵）で変わらず、大仙古墳（仁徳天皇陵）の百舌鳥耳原中陵が履中天皇陵だと思われます。

元嘉7年（430）『宋書』文帝紀の記述に「宋に使いを遣わし、貢物を献する」とあるが王名が記されていない。

『古事記』には壬申年正月3日に64歳で崩すとの記事が見え、西暦432年となるが、在位期間が427年から432年（5年）となるが、在位期間が短くそれ以前の讚の遣使に合わない。

ここは讚の遣使は仁徳天皇とすべきではないでしょうか。



ニサンザイ古墳（履中天皇陵）



靱（ゆぎ）形埴輪
（宮内庁蔵）



蓋形埴輪・笠部
（宮内庁蔵）

●大仙公園

設置・管理は堺市。計画面積は約81ha。南北を大仙陵古墳（仁徳天皇陵）、ミサンザイ古墳（履中天皇陵）に挟まれており、園内にも小古墳が点在している。もともとは、寛永年間に幕府代官高西夕雲と堺の豪商木地屋庄右衛門によって開発された「夕雲開」と呼ばれる新田であった

大正14年（1925）に大阪農学校（大阪府立大学の前身）が大阪市生野区から堺市大仙町に移転した際に実験用農地となった。

昭和22年（1947）には戦災復興都市計画の一部として市街地南部のこの地が公園に指定された。

昭和41年（1966）に大阪府立大学農学部が中百舌鳥に移転すると、都市公園として整備が行われ、昭和46年（1971）に中央図書館が宿院から移転平和塔も建設され、昭和55年（1980）には市制施行90周年を記念して堺市博物館が開館した。昭和61年（1986）には全国植樹祭が行われた。平成元年（1989）には、緑の文明学会・日本公園緑地協会による日本の都市公園100選の一つに選ばれています。

●七観山（しちかんやま）古墳跡の築山

七観山古墳はミサンザイ古墳（履中天皇陵）の陪塚と考えられる円墳です。

墳丘は、径約56m、高さ約8mで、周濠もありました。葺石と埴輪があり、墳頂部には鱗（ひれ）付円筒埴輪の方形埴輪列が巡っていたようです。また、家・短甲・蓋（きぬがさ）・靱（ゆぎ）などの形象埴輪も出土しています。

大正2年・昭和22・27年（1913・47・52）に遺物が出土し、粘土槨など3つの主体部が検出されています。

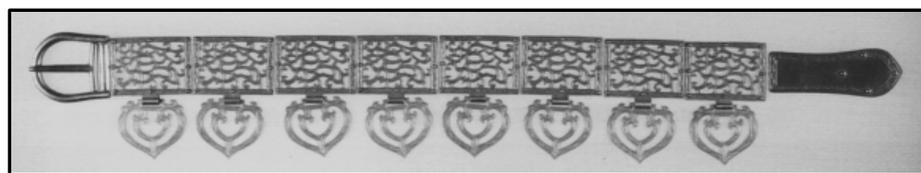
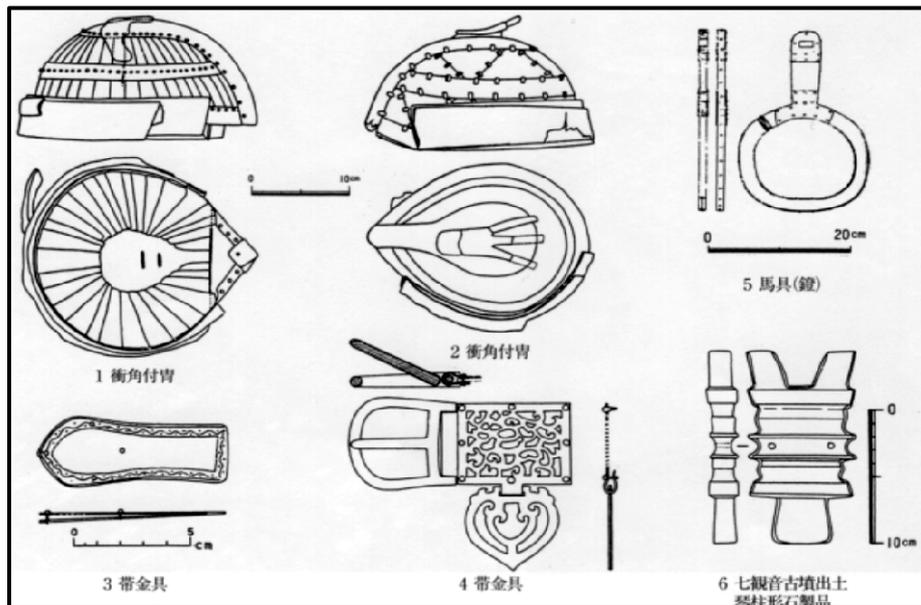
出土した遺物は、鉄製甲冑・鉄製素環頭太刀・鉄刀・蛇行状鉄剣・鉄剣・鉄鉾・鉄鏃・鉄斧・手斧（ちょうな）やりがんな・金銅製帯金具・馬具など多種多様で、そのほかに、滑石製勾玉や剣形鉄製品が採集されています。

出土遺物の中では、衝角付冑7鉢、短甲6領以上、鉄刀130口前後、鉄鏃110本など大量の鉄製武器・武具類の出土が注目されます。

七観山古墳はミサンザイ古墳（履中天皇陵）と同じく5世紀前半の築造と考えられています。

この古墳では多量の副葬品の埋納にもかかわらず、遺体の埋葬されなかった可能性があり、陪塚と考えられる古墳のあり方を示す貴重な一例ともなっています。

昭和27年、病院建築と土取りによって完全に破壊され、現在は、その跡地に同規模の築山が整備されました。



金銅製龍文帯金具の複製

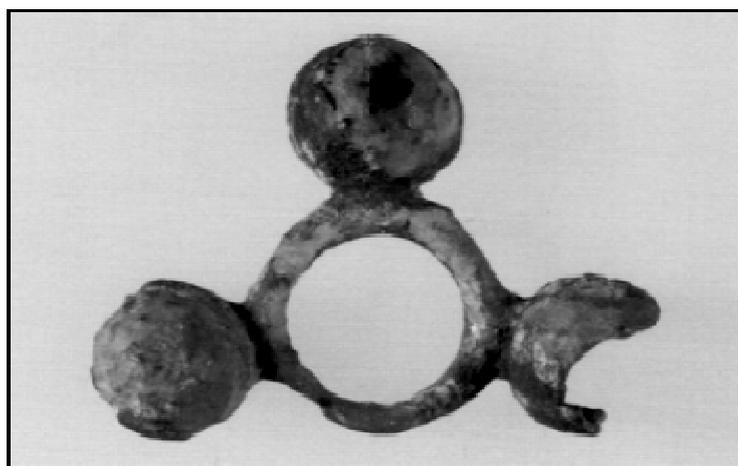
●七観音（しちかんのん）古墳

七観音古墳は直径約32.5m、高さ約3.8mの円墳です。昭和58年（1983）に実施した確認調査の結果、葺石を検出しました。

周濠は当初からなかったと思われます。

主体部等の詳細は明らかではありませんが、かつて碧玉製の琴柱形石製品が採集されています。（上図の6）

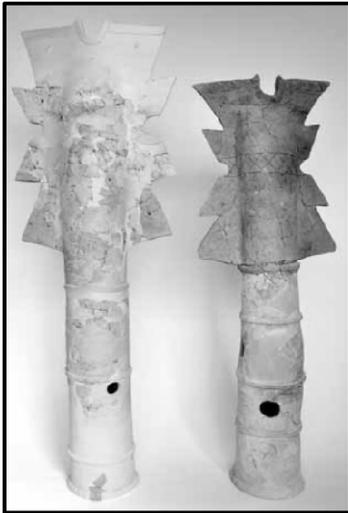
ミサンザイ古墳（履中天皇陵）の陪塚と考えられます。



伝七観古墳出土三環鈴

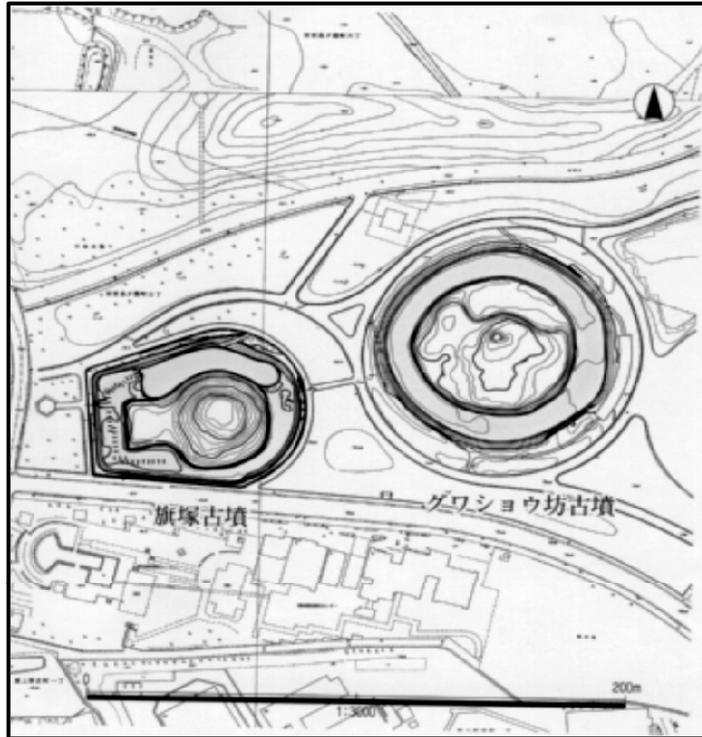
●旗塚古墳

墳丘は全長約53.8m、後円部径約41m、高さ約3.8m、前方部幅約21m、高さ約1.3mの帆立貝形の前方後円墳です。墳丘は2段築成で、前方部を西に向け、盾形の濠が巡っています。主体部の構造や副葬品はわかりませんが、円筒埴輪・朝顔形埴輪のほかに石見（いわみ）型盾・蓋などの形象埴輪が出土しています。5世紀中頃の築造と考えられています。



石見型盾埴輪の形
長岡京市塚本古墳

グワシヨウ坊古墳と同様に、大山古墳（仁徳天皇陵）とミサンザイ古墳（履中天皇陵）の陪塚ではありません。



●グワシヨウ坊古墳

墳丘は径約61m、高さ約3.7mの円墳で、2段築成です。周囲には濠が巡り、葺石と埴輪があります。

主体部の構造や副葬品はわかりませんが、径61mという大きさは、円墳としては日本の古墳の中でも大型の部類に入ります。

（1位は丸墓山古墳・埼玉県行田市で径102m）

5世紀後半頃に独立的に造られた大円墳です。

●堺市博物館（65歳以上無料、学割あり）

堺市博物館（館長は中西進氏）は市制90周年記念事業として昭和55年（1980）に開館されました。

大山古墳（仁徳天皇陵）に代表される百舌鳥古墳群からの出土品、近世の自由都市「堺」の都市史等資料や鉄砲などの交易品、千利休や与謝野晶子をはじめとする堺出身の芸術家の資料などを展示し、古代から近代に至までの堺の歴史を紹介しています。

●堺市茶室伸庵・黄梅庵

数寄屋普請の名匠といわれた仰木魯堂（文久3年（1864）に、福岡県遠賀郡名津村に生まれた）が粋をこらして建てた茶室で、もと東京芝公園にあったものです。

魯堂は、明治、大正、昭和を通して棟梁として天下一といわれただけでなく、松永耳庵翁（松永安左エ門で東邦電力会社会長など電力界で活躍した実業家、昭和46年（1971）没、95才）など、大茶人と親交があり、箱根の強羅公園内の白雲洞茶苑など各所に名茶席を残しています。

昭和55年（1980）に大仙公園内に福助（株）が移築寄贈された。

ここで立礼席の呈茶（300円）をいただきます。

●孫太夫山古墳

大山古墳（仁徳天皇陵）の南側にある、前方部を西に向けた帆立貝形の前方後円墳です。大山古墳（仁徳天皇陵）の陪塚の一つです。後円部を中心とする範囲は宮内庁によって管理されています。現在は前方部と周濠が復元されています。

名前は所有者であった江戸時代の大鳥郡中筋村の庄屋であった南孫太夫が明治初期に国に納められており、これに由来します。

第13代の堺市長南治好氏（昭和21年～22年の第1回公選市長）は、この南家18世でした。

大正15年（1926）測量の宮内庁陵墓図によれば、墳丘長48m、後円部径44m、後円部高さ8m、前方部残存高2mと計測され、この時前方部はすでに削られていました。

現在の前方部は古墳整備工事に際して推定復元されたものです。

主体部や副葬品、埴輪など不明です。

陪塚として宮内庁が管理しています。



●大山古墳（仁徳天皇陵）

日本最大の前方後円墳です。

現在は仁徳天皇陵として宮内庁が管理しています。

前方部を南に向けた墳丘は、全長約486m、後円部径約249m、高さ約35.8m、前方部幅約307m、高さ約33.9mの規模で、3段築成されています。

左右のくびれ部に造出しがあり、三重の濠が巡っていますが、現在の外濠は明治時代に掘り直されたものです。

葺石と埴輪があり、女性の頭部や馬の埴輪が出土しています。

平成10年（1998）には、東側の造出しから5世紀中頃の須恵器の甕（かめ）が出土しています。

明治5年（1872）には前方部で竪穴式石室に収められた長持形石棺が見つかり、刀剣・甲冑・ガラス製の壺と皿等が出土しました。この時の出土品は再び埋め戻されたと言われていますが、絵図が残っており、甲冑は金銅製の豪華なものだったようです。

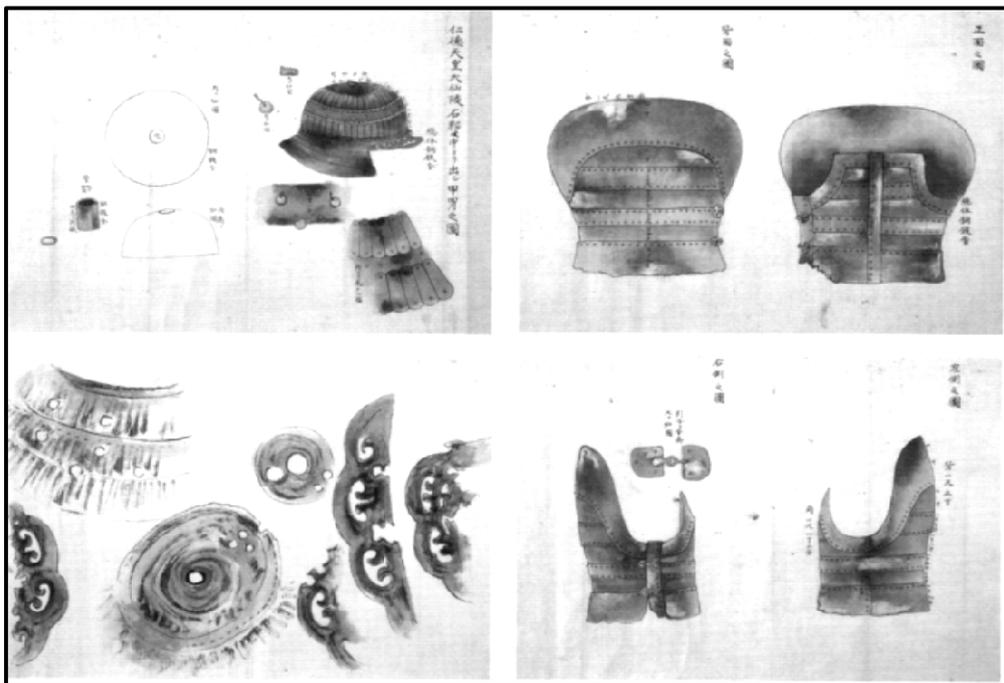
なお、江戸時代の記録によると後円部にも同様の石棺があるようです。

アメリカのボストン美術館には、本墳出土と伝えられる細線式獣帯鏡や単鳳環頭太刀などが所蔵されています。

周囲の陪塚と考えられる古墳として樋（ひ）の谷古墳・茶山古墳・大安寺山古墳・源右衛門山古墳・狐山古墳・銅亀山古墳・塚廻古墳・収（おさめ）塚古墳など10基以上ありますが、塚廻古墳を除いて主体部の構造や副葬品のわかっている古墳はほとんどありません。

仁徳天皇陵とされていますが、『日本書紀』などに伝えられる仁徳→履中の在位順とは逆に、ミサンザイ古墳（履中天皇陵）よりは新しく5世紀中頃の築造と考えられます。

全長2850mの周遊路が整備されています。



『仁徳天皇大仙陵石槨之中ヨリ出シ甲冑之圖』（堺市博物館蔵）



大山古墳（仁徳天皇陵）と陪塚



水鳥形埴輪・頭部（宮内庁蔵）

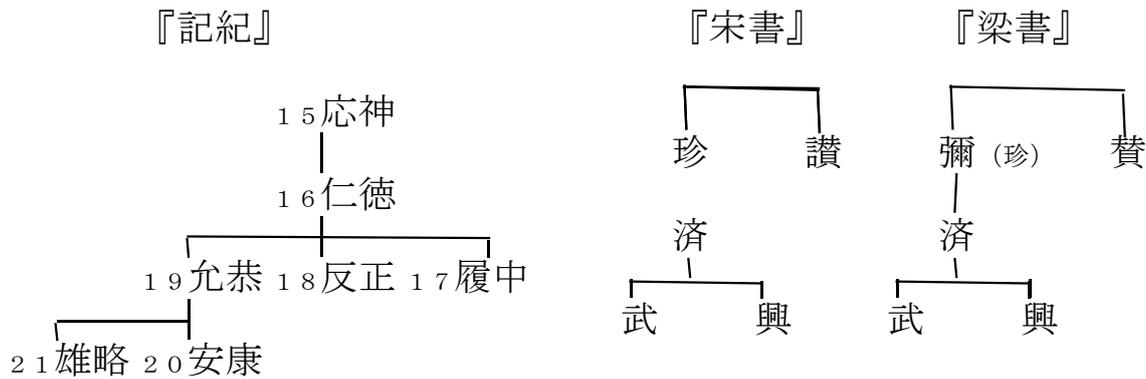


須恵器・甕（宮内庁蔵）
（ 8 ）

●仁徳天皇と履中天皇

421年以降、讚・珍・済・興・武の合わせて5人の倭王が、継続して中国の宋に朝貢して「官爵」を授かっている。いわゆる倭の五王である。倭王武の遣使の478年が最後となりました。5世紀は中国史料からいえば「倭の五王の世紀」ということになる。

倭王武の上表文に「東のかた毛人を征すること五十五国、西のかた衆夷を服すること六十六国・・・」とあり、武の居所はいろいろと説がありますが、畿内の王と見るのが自然です。



『古事記』などの天皇系譜から讚と珍については、『宋書』と異なり確定はしていません。済は允恭、興は安康、武は雄略等の説は研究者間でほぼかたまっているようです。

『古事記』では、讚は仁徳、珍は反正が読み取れるのですが、どうでしょうか。

第16代・仁徳天皇	『日本書紀』	『古事記』
名前	大鷦鷯 (おおさざき) 天皇	大雀 (おほさざき) 命
父	応神天皇の第4子	品陀 (ほんだ) 和気命 (応神)
母	仲 (なかつ) 姫命	中 (なかつ) 日売命
皇后	磐之姫命 (履中・反正・允恭らを生む) 八田皇女の妃で不仲 35年、亡くなる。 38年、八田皇女	石 (いわ) 之日売命 (履中・反正・允恭らを生む) 嫉妬深い。 八田若 (やたのわき) 郎女
崩御の年	仁徳87年	丁卯 (ひのとのおう) 427年
崩御の年齢		83歳
皇居	難波の高津宮	難波の高津宮
造った役所	壬生部 (履中の授乳) 葛城部 (磐之姫皇后に)	壬生部 (履中の授乳) 葛城部 (磐之姫皇后に) 蝮部 (たぢひべ) (反正に) 大日下部・若日下部 八田部 (八田若郎女に)
御陵 (みはか)	百舌鳥野陵 (百舌鳥耳原) 67年に陵を築いたとあり 20年かかっている。	毛受 (もず) の耳原

第16代・仁徳天皇	『日本書紀』	『古事記』
皇位継承	菟道稚（うじのわき）郎子と譲り合う。	
業績	4年、民の籠の煙で窮乏を知り減税。 茨田堤・栗隈（くるくま）県に大溝・横野堤・猪飼津に小橋・感玖（こむく）に大溝等の土木事業を展開。 紀角（きのつぬ）宿祢を百済に遣使。 新羅・蝦夷との紛争。	国中（くぬち）に烟（けむり）発（た）たず減税。 茨田堤・茨田三宅（屯倉）・丸邇（わに）池・依網（よさみ）池・難波の堀江・小椅（おぼし）の江・墨江の津の造営。
御世を称えて	聖帝（ひじりのみかど）	聖帝（日知りの意）の世

仁徳天皇の生誕年は記載されていないが、『古事記』で没年が丁卯（ひのこのう）と記述されており、5世紀の西暦427年であるとすれば、倭の五王の「讚」となる。

第17代・履中天皇	『日本書紀』	『古事記』
名前	去来穗別天皇	伊邪本和気命
父	仁徳天皇の第一皇子	大雀（おほさざき）命
母	磐之媛命	石（いわ）之日売命
皇后	草香幡梭皇女 （くさかのはたびのひめみこ）	
崩御の年	履中6年	壬申（432年）
崩御の年齢	70歳	64歳
皇居	磐余稚桜宮	
造った役所	諸国に国史（ふみひと、書記官）を置き、情勢を報告させた。 蔵職（くらのつかさ）と蔵部を興こした。	蔵官 若桜部
御陵（みはか）	百舌鳥耳原陵	毛受（もず）にあり。
業績		近つ飛鳥（大坂羽曳野）と遠つ飛鳥（大和明日香）

履中天皇は天皇在位6年、反正天皇が5年と短い。
允恭天皇は42年であるが、安康天皇は暗殺されたこともあるが、3年と短い。雄略天皇は23年であった。
在位の短い天皇が中国に遣使できるのか少し疑問が残ります。

『日本書紀』『古事記』の「倭の五王」に関連する天皇

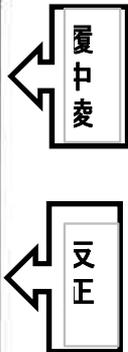
	日本書紀				古事記		
	即位	元年	没年	歳	没年	歳	倭の五王
応神	即位 巳丑 269年	元年 庚寅 270年	41年 庚午 310年	110歳	甲午 334年	130歳	甲午 394年
仁徳	即位 庚午 310年	元年 癸酉 313年	87年 巳亥 399年		丁卯 367年	83歳	讚 丁卯 427年
履中	即位 巳亥 399年	元年 庚子 400年	6年 乙巳 405年	70歳	壬申 432年	64歳	壬申 432年
反正	即位 乙巳 405年	元年 丙午 406年	5年 庚戌 410年		丁丑 437年	60歳	珍 丁丑 437年
允恭	即位 庚戌 410年	元年 壬子 412年	42年 癸巳 453年	78歳	甲午 454年		濟 甲午 454年
安康	允恭42年 即位 癸巳 453年	元年 甲午 454年	3年 丙申 456年		(未記入)	56歳	興
雄略	安康3年 即位 丙申 456年	元年 丁酉 457年	23年 巳未 479年		己巳 489年	124歳	武 己巳 489年

倭の五王の遣使の西暦年

421年	倭王「讚」、「宋」に遣使
425年	倭王「讚」、「宋」に遣使
430年	倭王「讚?」、「宋」に遣使
438年	倭王「珍」、「宋」に遣使
443年	倭王「濟」、「宋」に遣使
451年	倭王「濟」、「宋」に遣使
460年	倭王「濟?」、「宋」に遣使
462年	倭王「興」、「宋」に遣使
477年	倭王「武」、「宋」に遣使
478年	倭王「武」、「宋」に遣使
479年	倭王「武」、「南齊」に進号
502年	倭王「武」、「梁」に進号

百舌鳥古墳群の円筒埴輪分類・編年表

川西編年年代	焼成技法	透かし孔	口縁部*	外面調整	内面調整	突帯	主要な古墳
300 特殊器台系・I期 4世紀		△▽ □		タテハケ	ケズリ ナデあるいはハケ		
II期	野焼き			タテハケ後 A種ヨコハケ			乳岡
400 III期							ミサンザイ 大塚山
IV期前半 5世紀	窯焼き	○	加飾口縁	タテハケ後 B種ヨコハケ	ナデあるいはハケ		いたすけ 御廟山 田出井山 大仙
IV期後半						仁徳陵	
500 V期 6世紀			直立口縁	タテハケ			ニサンザイ 定の山 一本松 平井塚
						断続ナデ技法	



百舌鳥古墳群における円筒埴輪 分類・編年表

*口縁部のうつりかわりは、百舌鳥古墳群のみでみられるもの

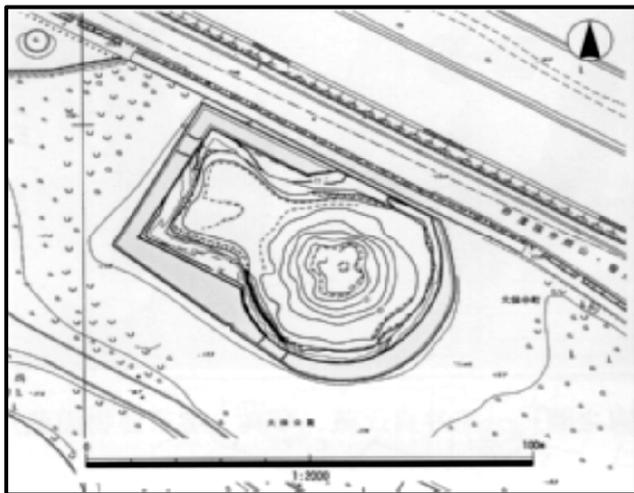
堺市ホームページ「百舌鳥の円筒埴輪」参照
(一部補正)

●竜佐山古墳

大山古墳（仁徳天皇陵）の南側にある。前方部を西に向けた全長61m程の帆立貝形の前方後円墳です。後円部径は約43m、高さ約7m、前方部幅26m、高さ2mを測ります。

現在は墳丘裾（すそ）廻りから周濠が復元整備されています。

整備工事前などの調査では、周濠から葺石や埴輪が出土しました。また、前方部北西隅には「陸橋」があった可能性が指摘されています。主体部や副葬品などはわかっていません。



●狐山古墳

墳丘直径23m、高さ4mの円墳で、周濠の有無は不明です。現状は墳丘の裾が削られ方墳状になっていますが、墳丘は高く残存度は良好です。

陪塚として宮内庁が管理しています。

●銅亀山古墳

大山古墳（仁徳天皇陵）の西南にあり、一辺26m、高さ4.6mの方墳で周濠の有無は不明です。古くは堂亀山とも記されていたようです。墳丘は高く、2段築成がよく残るなど残存度は良好で、下段は南側が造り出し状に張り出し長方形を呈しています。昔は古墳の上に高射砲の陣地があったといわれ、頂上はかなり荒らされていて、埋葬の跡もなくなっていると考えられています。宮内庁が管理しています。

●磐之媛万葉碑

犬養孝氏の書による万葉歌碑が並んでいます。仁徳天皇の皇后である磐之媛命の歌であるが、彼女は葛城襲津彦の娘で、『古事記』に「甚多く嫉妬みたまひき」という記述が見られるように嫉妬深い人物として知られています。

仁徳天皇30年（342年）、彼女が熊野に遊びに出た隙に夫が八田皇女（磐之媛命崩御後、仁徳天皇の皇后）を宮中に入れたことに激怒し、山城の筒城宮（現在の京都府京田辺市）に移り、同地で没した。

磐之媛命陵の陵は、ヒシアゲ古墳（奈良県奈良市佐紀町）治定され

ています。

ここに置かれた歌は、天皇との贈答歌です。ここでの「君」はもちろん仁徳天皇を指します。

正面の万葉仮名の石碑、

ありつつも 君をば待たむ うち靡 (なび) く
我が黒髪に 霜の置くまでに 卷2-87

こうやって、いつづけて、あの方をお待ちしていよう、
私のこの靡いている黒髪に、夜の霜がおりたってかまやしない。

左右の石碑、

君が行き 日長くなりぬ 山尋ね 迎へか行かむ
待ちにか待たむ 卷2-85

かくばかり 恋ひつつあらずは 高山の 磐根しまきて
死なましものを 卷2-86

秋の田の 穂の上に霧 (き) らふ 朝霞
いつへの方に 我が恋やまむ 卷2-88

居明かして 君をば待たむ ぬばたまの
我が黒髪に 霜は降るとも 卷2-89

●樋の谷古墳

大山古墳（仁徳天皇陵）の三重濠の西側面のほぼ中央の濠が膨れた部分にある径4.7mの不整形な古墳です。古墳は濠を浚渫（しゅんせつ、広い面積にわたって水底を掘ること）した時の土を盛ったものとも言われ、古墳かどうかは疑問視されています。陪塚として宮内庁の管理です。

●初霜坂

ここは、大山古墳（仁徳天皇陵）の濠の水が流れ出す場所にあたります。初霜坂という名の由来は、大山古墳（仁徳天皇陵）の周囲に、旧暦の「二十四節気」を配置すると、ちょうどこの位置が「霜降(そうこう)」に当たるので、晩秋から初冬にかけて降りる「初霜」から名づけたものです。昔は蛍が飛び交うのどかな風景も見られたそうです。

この欄干に彫られている和歌は、三十六歌仙の一人である凡(おとし)河内(こうちの)躬恒(みつね)の詠んだ歌です。

心あてに 折らばや折らむ 初霜の

おきまどはせる 白菊の花 凡河内躬恒

●丸保山古墳

大山古墳（仁徳天皇陵）後円部の西側に近接して築かれた前方後円墳で、前方部を南に向けています。墳丘は全長約8.7m、後円部径約6.0m、前方部幅約4.0mの規模で前方部が低く短い帆立貝形と呼ばれる平面形です。

(14)

前方部は開墾によって削られています。
周囲には幅の狭い一重の濠が巡っています。主体部の構造や副葬品など詳しいことはわかっていませんが、円筒埴輪が採集されており、葺石を備えているようです。
後円部は宮内庁が、前方部及び周濠は堺市が管理しています。

●菰山古墳

現在は住宅に取り囲まれた円墳状の墳丘が残るのみで旧状をとどめませんが、もとは墳丘全長36m、高さ3mの前方部が南を向く小規模な帆立貝形の前方後円墳でした。

●永山古墳

大山古墳（仁徳天皇陵）の北西約50mにある前方部を南に向けた前方後円墳です。

墳丘の規模は全長約100m、後円部径約63m、前方部幅約68.5m、高さ10.3mで、西側のくびれ部には造出しが認められます。

墳丘は3段に築かれていて、葺石と埴輪があり、現在一重の盾形の周濠が巡っています。

主体部の構造などはわかっていません。

墳丘は大山古墳（仁徳天皇陵）の陪塚として宮内庁に管理されていますが、形態や規模から陪塚とは考えにくい古墳です。

●宿院頓宮

由緒では住吉大社(大阪市住吉区)御祭神の住吉大神と大鳥大社(堺市西区鳳北町)御祭神の大鳥井瀬大神をお祭りし、堺の鎮守の神として崇敬されています。御鎮座は不明ですが、堺荘が中世まで住吉大社神領であったことや、頓宮前の飯匙(いひがい)堀は海幸山幸の彦火火出見尊が所持していた潮干珠を埋めたところで、その形が飯匙(飯を盛るためのしゃもじ)に似ていることから名付けられたとの伝承もあり、古くから住吉大社との縁が深く、住吉行宮・御旅所とも称されています。この飯匙堀は境内の西側にあります。

古くから夏の大祓日に住吉大社から神輿を迎え、境内にある飯匙堀で、荒和(あらにごの)大祓が行われてきました。

神社としては、大正期に境内へ遷座された「波除住吉神社」と「大鳥井瀬神社」の二社がある。堺大空襲による焼失以前は二社殿が並んでいたが、以降は一社殿にて合わせ祀られています。

祭神は、住吉大神の底筒男(そこつつのを)命、中筒男(なかつつのを)命、表筒男(うはつつのを)命、息長足姫命(おきながたらしひめ、=神功皇后)で、大鳥井瀬大神の弟橘媛命は『常陸国風土記』で倭武天皇(日本武尊)の皇后とある。

現在は7月31日に大鳥大社から、8月1日に住吉大社から神輿の渡御が行われている。

●千利休屋敷跡

千利休は大永2年（1522）、堺今市町（現在の宿院西1丁）の豪商魚屋（ととや）の長男・与四郎として生まれました。17歳の時北向道陳（室町時代の茶人）茶湯を学び、のちに武野紹鷗（戦国時代の豪商で茶人）に師事し、わび茶を大成させました。茶の湯をもって信長に接近し、その死後は秀吉の茶頭として仕えながら、北野の大茶会を取り仕切るなど天下一の茶匠として権勢を振るいましたが、小田原の役後秀吉の怒りにふれ自刃しました。

現在の茶道千家の始祖であり「茶聖」と称せられています。

屋敷跡には椿の井戸が残っていますが、椿の炭を底に沈めていたといわれます。井戸屋形は利休ゆかりの大徳寺山門の古い部材を用いて建てたものです。

大徳寺（京都市北区）山門は、天正17年（1589）千利休が上層を完成させて金毛閣と名づけた。利休は上層に自身の木像を安置したが、門をくぐる者は利休の下を通ることになると、豊臣秀吉の怒りを買って、秀吉はこのことを楯に利休に自決を迫ったという因縁の山門です。

●与謝野晶子生家跡

与謝野晶子は菓子商駿河屋の三女として甲斐町に生まれてから、鉄幹に出会い家を出るまで堺ですごしました。明治・大正・昭和を短歌とともに生き「情熱の歌人」と呼ばれ、同じ文学者鉄幹の妻であり、11人の子どもたちの母でもありました。

明治34年（1901）に出版された「みだれ髪」は、鉄幹へのあふれる愛と青春のみずみずしさを歌いあげ、浪漫主義の代表作となりました。

また詩、評論、古典研究などさまざまな執筆活動を展開する一方、女性の権利に焦点をあてた評論も多く著し、当時の女性の地位向上に積極的に取り組んだことでも有名です。

その生家跡には「海こひし潮の遠鳴りかぞへつつ少女となりし父母の家」の歌碑があり、晶子と鉄幹を引き合わせたといわれる覚応寺（堺市堺区九間町）、二人がはじめてデートした浜寺公園など、エピソードが伝わっています。

●式内社・開口（あぐち）神社（大寺さん）

開口神社は奈良時代には開口水門姫神社と称しており、最古の国道と言われる竹之内街道の西端にあって大阪湾の出入口を守る神社で、神功皇后勅願によって建立されたと伝えられます。

堺の集落はこの辺りから発展しました。

その後、平安末期の天永4年（1113）開口・木戸・原村の神社が合祀され堺の総氏神として崇敬を集め、また江戸時代まで念仏寺というお寺が境内に在ったことから今も大寺さんといわれ親しまれています。

念仏寺の開山は天平16年（744）で行基による。平安期には空海や空也とゆかりがあり、密教や浄土教の道場にもなって活況を呈

したことから、大寺の通称が定着するに至っています。

慶長元年の頃に開口神社(あぐち)の境内に店を構え、あんころ餅やきなこ餅、大福焼餅などを売っていた大寺餅は有名でした。与謝野晶子が「年を取ると昔食べたものが懐かしくてねえ、東京へ来る時は他の土産は要りませんから大寺餅と四十日芋を持ってきて欲しい」と言ったという事です。

他にも上方落語や松竹新喜劇などにも大寺餅が登場しています。戦後、大寺餅は堺市堺区少林寺町に引っ越しをしてみました。

御祭神は塩土老翁(しおつちのおじ)神・素盞鳴神・生国魂(いくたま)神です。

創建は社伝では、神功皇后の三韓征伐の帰途、この地に塩土老翁神を祀るべしとの勅願により創建されたと伝えています。

●ザビエル公園

天文19年(1550)に堺に来たイエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルを、手厚くもてなした豪商・日比屋了慶(安土桃山時代の堺の豪商)で代表的なキリシタンの屋敷跡につくられた公園で、昭和24年(1949)ザビエル来航400年を記念して「ザビエル公園」と命名されました。

堺鉄砲の碑・ポルトガルのジョルジヴィエイラの彫刻・聖ザヴィエル芳躅(ほうたく、よい行績)・安西冬衛(奈良市に生まれた詩人)の春の碑などがあります。

●刃物伝統産業会館

堺の刃物を中心とした伝統産業の会館です。外観は3階建ての蔵がある昔の堺の商家をモデルにしています。大きな庇は「おだれ」と呼ばれたもので、道の両側の店先から伸びてあたかもアーケードのようになっていたものです。

堺刃物の技術が戦国時代には鉄砲の産地となるなど堺刃物の歴史を学ぶことができます。

●チンチン電車阪堺線

チンチン電車は上町線(天王寺駅前～住吉公園)と阪堺線(恵美須町～浜寺駅前)があります。上町線の方が古く、その前身は、明治30年5月に設立された大阪馬車鉄道株式会社です。馬車鉄道とは、軌道に乗った客車を馬が引っ張るというもので、当時としてはモダンな交通機関として脚光を浴び、全国各地でその姿を見ることが出来ました。

阪堺線は明治43年3月に旧阪堺電気軌道株式会社として設立されました。旧阪堺電気軌道は、大正4年6月南海鉄道と合併し阪堺線となりました。

戦時中の企業統合政策により社名を近畿日本鉄道と改称したりしましたが、戦後は昭和22年6月に新発足した南海電気鉄道に引き継がれました。さらに昭和55年12月1日、阪堺電気軌道として再スタートを切るようになりました。

レトロなチンチン電車をお楽しみください。

参考文献

日本書紀・上 講談社学術文庫 宇治谷孟 昭和63年 (株)講談社
日本書紀・上 坂本太郎他校注 1984年 (株)岩波書店
古事記・中・下 講談社学術文庫 次田真幸 1995年 (株)講談社
日本の歴史02 王権誕生 寺沢薫 2000年 (株)講談社
日本の歴史03 王権誕生 熊谷公男 2001年 (株)講談社
百舌鳥古墳群 平成22年 堺市博物館
百舌鳥古墳群めぐり 堺観光コンベンション協会 パンフ
堺の文化財 平成20年 堺市市長公室文化部文化財課
堺市ホームページ 百舌鳥の円筒埴輪
堺 仁徳陵と自由都市 堺市博物館 パンフ
開口神社 大寺さん 由緒書 パンフ
大仙公園 パンフ
大仙公園周辺マップ 堺観光ボランティア協会 パンフ
与謝野晶子 文学碑めぐり 堺観光コンベンション協会 パンフ
堺市茶室ごあんない 堺観光コンベンション協会 パンフ
堺観光マップ 堺観光コンベンション協会 パンフ
堺まちあるきマップ 堺観光コンベンション協会 パンフ
鋭美なる技 堺HAMONOミュージアム パンフ
阪堺電気軌道株式会社ホームページ